

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
ボックスを使った自立課題のワークシステム	高	ホームルーム （自立活動）	松田晃典

<ねらい>

ホームルームの時間等に、個人の目標に応じた課題に取り組んだ。このワークシステムでは6段のボックスを使用し、課題の順番や課題の量、どれだけやれば「終了」であるのかを視覚的に伝え、最後まで一人で取り組むスキルの獲得をねらって設定した。

<内容（作成方法・使用方法・工夫点など）>

まず、ボックスのサイドに色カードをセッティングする。この色カードは6段の引き出しのそれぞれの色と対応しており、一番上の色カードから手に取ると、対応する引き出しにマッチングさせて課題に取り組む。課題が完成すると引き出しを戻し、次のカードを手に取り、対応する引き出しにマッチングさせる・・・この流れで課題に取り組み、色カードがすべてなくなれば「終了」である。色カードのセッティングの枚数を変えることで「どれだけの課題を行えばよいのか」という設定を視覚的に伝えた。



6課題を行う場合のセッティング



4課題を行う場合のセッティング



1番目の色カードをマッチングさせる



【課題エリア】

課題に集中できるように段ボールを使った「ついたて」を使い、不要な視覚刺激を遮断する

課題を行う際には、ついたてを使用して「課題エリア」を設置し、課題に集中できる環境整理を行っている。課題の内容については、将来の「仕事」に向けて、様々な作業スキルの獲得を目標に設定している。「最後まで一人でやること」を最重点目標としており、各課題についても、教師との対面課題により一人で最後までできるようになった段階で自立課題に組み込むようにしている。



⇒



【実際の様子】自分で色カードをマッチングさせ、対応する引き出しを取り出し、机の上に置いて課題に取り組む。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

ワークシステムを理解し、一人で課題に取り組むことができている。最後の課題を完成させ、引き出しを戻すと、自らエリアより出てくることができている、「終了」の見通しをもつことができている。

<その他（材料、費用、購入先等）>

ボックスは、ホームセンター等で購入できる。



【課題の一例】

醤油さしの組み立て